

| 令和4年度 第1回岡崎市行財政調査会 会議録 | |
|------------------------|---|
| 開催日時 | 令和4年6月1日(水) 午前10時00分～午前11時00分 |
| 開催場所 | 岡崎市役所東庁舎7階 701号室 |
| 委員 | 出席者：岩月幹雄、中嶋拓、中嶋有美子、原田莉緒、播元公昭、松下康之、宮澤会美香、米津眞 欠席者：太田敏子、三浦哲司 |
| 事務局 | 財務部長：本多徳行、行政経営課長：勝上典、同課副課長：山内智弘 同課主任主査：光田和広、同課主事：米田優 |
| 会議次第 | 議題1 会長及び職務代理の選任について 議題2 岡崎市行財政改革推進計画令和3年度実績報告について 議題3 岡崎市行財政改革推進計画に基づく今年度の取組について |
| 傍聴者 | なし |
| 議事要旨 | <p style="text-align: center;">－ 開会 －</p> <p>議題1 会長及び職務代理の選任について 事務局から、岩月委員を会長に提案 出席委員による承認 岩月会長が職務代理に米津委員を指名</p> <p>議題2 岡崎市行財政改革推進計画令和3年度実績報告について 資料に基づいて事務局から次のとおり説明。 ・計画期間の切替に合わせて実績報告書の内容を大きくリニューアルし、計画に基づく取組の中から主な成果としてふさわしいものをピックアップして体系ごとに紹介していること。 ・コロナ禍にあり、取組を後回しにせざるを得ないものもあったが、感染拡大防止のため推奨される行動様態に結びつくものは、逆に発展させることができたこと。</p> <p>【各委員の主な質疑】</p> <p>○松下委員 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために様々な取組が後回しになってしまったという様子がよくわかった。このような状況であったことを市民の方にも伝えられるとよいのではないかと思った。</p> <p>○米津委員 6ページに記載のある保育園の民間移管について、岡崎市には私立の保育園もあるが、どのように違うのか。</p> <p>(事務局：本多) 岡崎市には公立と私立の両方の保育園が存在するが、岡崎市の保育の方針としては、公立でも私立でも同等のサービスが受けられることを基本として</p> |

いる。なぜ民間移管をするかという点、施設の建替の際、私立には国の補助金が手厚く交付されるため、市の財政負担が少なくなるというメリットがある。

全ての保育園を民間移管するわけではなく、基幹となる園は公立を維持しつつ、市の財政面への効果を鑑みて、できるところは民間移管していきたいと考えている。

○米津委員

私立の保育園になると、基本的には継続して運営していただけるものと思うが、急に廃止になることも考えられるので、その際の対応は注意していただきたい。

もう1点、新型コロナの影響で取組が進まなかったものもあったが、反対に発展したものがあつたという状況がよくわかつた。各課がワクチン接種業務に人手を割かれ、財政が厳しい中で、これまでの業務を見直し、人員の無駄を省いたり、業務内容を縮小したりしたのではないか。必要に迫られて行財政改革を行ったということ。今後につなげてほしい。

せっかく進んだデジタル化であるので、コロナが終息したら、また、元に戻りということにならないよう改善を継続してほしい。

○宮澤委員

「どうする家康」に合わせて観光客を呼び込むための事業を進めていくと思うが、外国人観光客の入国緩和もあり、市民の立場としては感染症リスクの高まりが気になるところである。岡崎市独自の感染対策は何か考えているか。

もう1点、スマートフォンによるキャッシュレス決済について、導入から半年を経て、市民の方がどれくらい利用しているか教えて欲しい。

(事務局：本多)

感染対策については、愛知県と県内の中核4市としては、愛知県の指示に従った対策を周知している。愛知県の指示は国の指示に準拠しているが、飲食店における入店人数など国と愛知県でも一部違いがある。市として独自の対策を講じるのは難しいので、愛知県と中核4市で足並みをそろえているというのが現状である。

(事務局：山内)

スマートフォンによるキャッシュレス決済の利用については、3月末時点で約3,500件である。

○宮澤委員

感染対策について、今後広く観光をアピールするに当たり、愛知県の指示する感染対策を徹底している旨を記載しておけば、市民の方の安心感も高まると思う。

○中嶋拓委員

AI-OCRの活用について、様々な書類を処理したと書かれている。いきなり最初からちゃんと読み取れるというのは難しいのではないかと考えているが、実施した結果として、実用可能なレベルだったのか。

(事務局：光田)

報告書に記されている例は、すべて実行に移すことができたものである。ここに記載されているもの以外にも複数のテストが行われており、結果として実用に至らなかったものもある。

○中嶋拓委員

今はまだ読取精度が低くても、今後の機械学習により精度が向上すれば、さらに実績が増えていくものと期待している。

RPAについて、報告書に記載された内容を見るとRPAがしっくりくる業務であると感じた。削減の成果があることもわかったが、割合でなく、実際にどれくらいの業務時間が削減できたか、データがあれば教えてほしい。

(事務局：光田)

今、手元に削減時間のデータを持ち合わせていないので回答できない。

○中嶋拓委員

RPAの対象範囲については、今後も対象を拡大していくのか。

(事務局：光田)

RPAの前提となる業務の洗い出し作業に時間を割くことが難しい状況ではあるが、やれるところから順次進めていきたい。

○中嶋有美子委員

保育にはアナログ作業が残っているということだが、RPAの導入についてはどうか。

(事務局：山内)

今年度、保育業務については、デジタル化を踏まえた業務改善に取り組んでいくが、主なアナログ作業として二つの課題がある。入園届を紙で提出させていることと、申込みに対する入園決定について、家からの距離や兄弟関係を踏まえて職員が手作業で調べて判定していることである。後者について、進んでいる自治体では、AIを使ってマッチングを行っている例がある。今年度、業務の洗い出しから入って、AIなどが活用できないか検討していく予定である。そのほか全体を見渡して他にもできることがあればやっていきたい。

○原田委員

私自身、市役所との関りがなく、知らないことが多いが、今回資料を読んで色々なことを知ることができた。13ページの押印の義務付け廃止については、どのような基準で行ったのか。

(事務局：山内)

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、国等の要請もあり、窓口での接触のリスクを避ける必要があったため、押印の見直しを進めることとなった。今後デジタル化が進めば押印はますます必要なくなる。基準としては、国が定めたものをベースにした。現在は、本人確認の方法として個人を特定するツールが不十分であるため、署名や印字の場合に押印を求める場合があるが、デジタル化が普及した暁には省略していきたい。デジタル庁ではマイナンバー

ーカードを用いた取組を推進しており、市役所も対応していきたい。

○播元委員

コロナ対策でWEB会議が浸透した様子がわかった。ペーパーレス化にも貢献できている。道半ばとは思いますが、今後もさらに推進していくのか。ペーパーレス化に関して目標に掲げていることはあるか。

(事務局：山内)

具体的な数値目標はない。WEB会議が進めば自然とペーパーレス化が進むものと考えている。

○岩月会長

テレワークは弊社でも行っているが、特に女性や主婦の方に喜ばれており、働き方改革につながる取り組みである。例えば、1週間のうち2日はテレワークにするなどのような、数値的な目標を掲げて推進するとよいと思う。

議題3 岡崎市行財政改革推進計画に基づく今年度の取組について

資料に基づいて事務局から次のとおり説明。

・行財政改革推進計画における各取組の中から特に力を入れて推進すべき重点的な事項として今年度の行財政調査会で取り上げるテーマをDX（デジタルトランスフォーメーション）とすること。

・市役所の組織改正により、今年の4月からデジタル推進課が設置された。このデジタル推進課が中心となって、DXに関する取組を進めていくことになること。

【各委員の主な質疑】

○播元委員

資料中に周辺部住宅団地における高齢化を踏まえた暮らしの移動について検討支援するとあるが、こういった狙いか詳しく聞きたい。

(事務局：光田)

例えばバスが通ってない地域について、家から最寄りのバス停まで距離があるような高齢者の移動に当たり、予約や決済にデジタル機器を活用してなんらかの支援ができないかといった検討を行うものである。

○米津委員

デジタル化を推進するという目標は、各課がそれぞれ独自に進めていくのか。

(事務局：山内)

DXビジョンでは各課における取組を考えているが、全庁的な目標は別のところで示している。今年度は保育業務の改善がメインになってくると思う。昨年度は消防にターゲットをしぼり、消防職員が現場仕事に集中できるよう、事務仕事に業務改善のメスを入れた。AI-OCR、RPAは全庁的に各課が進めていく。

○米津委員

集中的にやっていく戦略は有効だと思う。各課が次は自分の番かな、と主体性をもって考えていっていただけるとよい。

○宮澤委員

デジタル庁への派遣については、何人くらい行っているのか。派遣期間は、何年か。

(事務局：山内)

現時点では1名派遣している。派遣期間は、2年である。民間のデジタル化の情報や他自治体との情報交換を行っている。岡崎市も遅れをとらないようにしたい。

○宮澤委員

保育業務だけではなく、高齢者のスマートフォン操作もデジタル化の課題だと思う。操作方法の講習を行う際は、易しい取扱方法も考えてほしい。

○中嶋拓委員

行政手続デジタル化については、予算額が90万であるが、他の業務に比べて少ない気がする。また、窓口のキャッシュレス化だけではなく、その後の納付や未納の確認処理もデジタル化を行うのか。従前から変わるところと変わっていないところが知りたい。

(事務局：山内)

今年度は窓口における現金納付をキャッシュレス化するための実証実験を行うもので、税金や保険料の納付は対象ではない。実証実験の対象として、支所における各種証明書の発行に係る手数料、動物総合センターにおける犬の登録、狂犬病予防接種の手数料、りぶらにおける会議室の貸出の使用料の3箇所を予定しており、予算としても窓口で使う機械をレンタルするためのものであるため、この程度の予算額となっている。窓口での現金収納であるため、未納確認などの処理は発生しない。

○岩月会長

最近読んだビジネス情報誌に、自治体DXが取り上げられており、千葉市では、LINEを使って個々に市民の方に、「あなたはこの申請ができますよ」といったプッシュ型の情報発信を行っているとのことであった。個人の認証に関して、セキュリティに関する課題があるとは認識しているが、岡崎市も市民サービスの向上につながるものをなるべく早く実施していくように積極的に取り組んでほしい。

○岩月会長

本日の議題はすべて終了いたしました。

これをもちまして、令和4年度第1回行財政調査会を閉会いたします。

— 閉会 —